



はじめに

2月が終わりに近づき、だんだんと春が近づいてきている今日この頃。振り返ってみると、年明けこそ雪のないスタートでしたが、今年はここ数年のうちで一番の大雪となりました。車の運転や除雪、生活の事を思えば、大人にとっては厄介者の雪ですが、子どもたちにとっては格好の遊び相手です。特に雪が好きな学園生たちは、暇を見つけては外へと駆けていき、さまざまな雪遊びに勤しんでいました。大きな雪だるまを作る、おもちゃのスキーやソリで斜面を滑り降りる、かまくらを作る、雪合戦等々、遊び方はさまざま。中でも、ソリをスノーボードに見立てて颯爽と新雪を滑り降りたり、完成したかまくらに寝袋を持ち込み、一夜を過ごしたりと、ただの雪遊びで終わらないところが山村留学生らしく、少し危なっかしい所もありますが、全身で冬を遊びつくす姿にはたびたび感心させられました。

そんな雪もいよいよ解けはじめ、春が訪れようとしています。日本では春夏秋冬の四季が回りますが、その中にもさらに、二十四節気、七十二候があります。先日、ある晴れた朝に見晴らしのいいところを通った際、朝焼けの山々にうっすらともやがかかっていた。二十四節気では「雨水」に当たる時期でしたが、更に七十二候を調べてみると、「霞始めてたなびく」とありました。新暦では2月24日頃からとされていましたが、その日がちょうど2月24日で驚きました。センターの周りにはまだまだ残雪が残り、この日もとても寒い朝でしたが、季節は着実にめぐっており、昔の人はこれほど正確に、繊細に季節の移ろいを感じていたのだと心打たれました。

雪が解け春がやってくるこの季節、学園生たちにとっては、21期生としての1年もとわずかなります。一日一日を大切に、修園のつとめまでの日々を過ごしていきたいと思います。

浅平 泰地

活動カレンダー

2月 1日(土)・2日(日)	親子スキー	21日(金)	センター入り
8日(土)・9日(日)	雪中キャンプ	23日(日) 24日(月・祝)	昔の生活体験
11日(火・祝)	アルペンスキー	28日(金)	農家入り
12日(水)	農家入り		

親子スキー 2/1 (土) ~ 2 (日) 晴れ

学園生の保護者が来園し、両日一緒にアルペンスキーを行いました。今年は学園生も滑る保護者の方もみんなレベル別に班分けをして一緒に滑りました。スキー初心者や、スキーをするのは 30 年ぶりという保護者もいましたが、講師の大國夫妻に教えてもらったり、子どもたちと一緒に滑りながら



昔の感覚を取り戻したりして、2 日間怪我なく無事に滑ることができました。子どもたちも上手に滑れるようになった姿を親に見てもらったり、自分が教えてもらったことを親に教えたり、リフトに乗って親子で話したりと、有意義な時間が過ごせました。



醤油仕込み 2/1 (土) 夜

2 回目の醤油麹がうまくでき、親子スキーで保護者が来園していたので、みんなで一緒に醤油を仕込みました。作業は、塩水を作って麹を入れるだけと簡単なもの。それぞれの家庭毎に 2L のペットボトルに分量通りの材料を入れて仕込みました。あとは、約 1 年間、攪拌作業としてペットボトルを振ったり、キャップを開けたりして熟成させていきます。1 年後、どんな醤油になっているか楽しみです。



雪中キャンプ 2/8 (土) ~ 9 (日) 雪

丁度寒波がやってきたタイミングで大雪の中での雪中キャンプとなりました。前日から雪が降り続いていたので、もともと裏山でやる予定だった火熾しや炊事は困難だろうと判断し、車庫でドラム缶などを



を使ってやることにしました。キャンプ活動の集大成でもあるこの活動は、炊事も寝る所もそれぞれの希望によりバディやソロなど決めました。継続生だけではなく新入園生でもソロにチャレンジする子もいて、今までのキャンプの経験を生かした活動ができました。炊事では普段よりは楽に火がついていましたが、中には一人でチャレンジして苦戦している子もいました。しかし、周りからの応援などもあり最後はどの子もおいしいご飯を作っていました。



炊事は車庫に変更しましたが、寝る所は裏山に作りました。テント、ブルーシート、かまくら、イグルーと形は様々ですが、まずは大雪の中自分たちの寝床になる場所の雪かきから始まりました。テントを張る子やブルーシートで寝床を作ったりする子は比較的早くできましたが、かまくらやイグルーに挑戦する子は時間が足りずに思うような寝床が作れず最後はブルーシートで寝ることに。誰もが極寒の雪山で一晩過ごす体験ができました。朝起きた子ども達は「本当に寒かった」「トイレに何度も起きた」などの感想を言っていました。雪の中で片付けも大変でしたが、最後までやり切り、今年度のキャンプ活動を終えました。



アルペンスキー 2/11 (火・祝) 晴れ

今年度最後のアルペンスキーは、今までにないぐらい天気のいい日に行きました。前日まで雪が降っていたため、グレンデのコンディションもよく絶好のスキー日和でした。今年度のスキー活動は学

校のスキー教室も入れて全6回ありましたが、初心者から始めた子も今ではどのコースも安全に滑り降りることができるようになったので、どの班も色々なコースへ行ってたくさん滑りました。たくさん滑る中で学園生はそれぞれに自分の課題は何かを考えながら、時には講師の大國さんや指導員に聞きながら滑ったりして

いました。雪も良く、もう少し滑りたい、と思った学園生も多かったと思いますが、この日でスキー活動は終わりです。今年は雪の多い年だったので、充実したスキー活動ができました。みんなとっても上手になりました。



昔の生活体験 2/23 (日) ~ 24 (月・祝)

この日は、受入れ農家でもある佐津目地区の矢田さん所有の「子ご美の里」という古民家を使って1泊2日の昔の生活体験をしました。この活動は、今までに身につけた野外活動や生活の知識やスキルをい

かし、準備や片付けも含め、すべてを子どもたちだけで協力して行うことが大きな目的です。

まずは中3をリーダーに、自分たちでミーティングをして役割分担や荷物の準備から始まりました。何からやったらいいのかわからない、どうしたらいいのかわからない、普段よりも会話が必要になり、みんながそれぞれ声をかけ合いながら準備をしました。午前中のうちに荷物の準備や、寝るための布団運びなどを終えました。お昼を食べてから、いよいよ子ご美の里へ移動しました。子ご美の里へ着くと早速、竈係、料理係、風呂焚き係の3つに分かれて作業を開始しました。途中には矢田家の父

さん母さん姉さんがやってきて大豆から豆腐作りをしてくださったり、家で育てている小松菜や野沢菜を持ってきてくれて料理に使わせてもらったりしました。豆腐作りも2人ほど学園生が手伝い一緒に作りました。作りたての豆腐を食べて「美味しい」と驚いていました。炊事場では冷たい水で野菜を洗って切ったり、竈で火をおこして羽釜でご飯を炊いたり、汁ものやおかずを作ったりしていました。また囲炉裏で炒った大豆を石臼で挽いてきな粉も作ったりしました。お風呂担当は外

で薪を割ったり、お風呂を洗ったりして湯加減に気を付けながら薪でお風呂を焚きました。夕方になるとお風呂がいい具合に焚けたので順番に入り、半分の子がお風呂に入ったらご飯も出来上がったので夕食をとることができました。みんなで囲炉裏を箱膳で囲み食事を取りました。炊き込みご飯や出汁から自分たちでとった味噌汁、焼き魚に、父さんが作った豆腐での冷ややっこ、おから煮、お浸し、漬物と豪華な食事が並びました。片

付けの後は矢田の父さんに、昔の生活についての話もしていただき、今の生活との違いや、昔の生活の中にある工夫や人情等についても知ることができました。父さんの話の後は、お風呂に入れなかった人たちがお風呂に入り、その後男子はそのまま子ご美の里で、女子は自治会館へ移動して寝ました。

次の日も自分たちで朝食を作って食べ、片付けや掃除をしてセンターへ戻りました。夕方には振り返りシートを記入し、その中でも自分の力を出せた場面や、他の人のおかげで助かったことをみんなの前で発表したりして活動を振りかえりました。

雪



西村崇司のつぶやき

＼昔の生活／

ふとした時に「昔はどがだったかいな」と記憶をたどることがあります。古きを懐かしむという気持ちからというより、その頃、どういった工夫があったのか、どんなことをしていたのか、どんな変化があったのかを知りたい気持ちが強いからです。複数人で「昔は・・・」といった話題になったときは、「〇〇年代は」とか「大阪万博があった頃は」というようにある程度、具体的な時期を明確にするよう心がけています。数ヵ月前から、ほぼ同じ年で職場仲間だった同僚と一緒に仕事をしていて彼との会話は楽しいです。「人の名前が出てこんが～」「この前のことはどがだったけ～」はお互いの日常茶飯ですが、彼のすぐれていることは「昔＝昭和40年代以降」のことをよく覚えていることです。若い頃から青年団活動をしていたことを通じて大田市内のさまざまな地域に出かけたことやその地域の異年齢の方と交流してきたので、自分の生活圈周りだけではない広い範囲の知見を持っています。彼と話しをすると自分自身の生活歴の記憶を補ってくれたり、記憶の誤りをただしてくれます。だから、昭和30年代下旬から50年代中旬までの生活はある程度正確にたどることができるようになったと思いがちですが誤解は多くあります。身近な例をとると、近所に住んでいた3歳上の従姉、3歳下の弟と話しをするとお互いの記憶に食い違いがよく出てきます。たとえばトイレ事情です。わたしたちの地域と世代のトイレは汲み取り式でこれは共通項です。しかし、トイレトーパー（おしり拭き）には違いがあります。従姉とわたしは新聞紙を今のティッシュペーパーより少し大きいサイズに切って揉んでやわらかくしたもの（モモシャクルという言い方をしていました）をお尻ふきに使っていましたが、弟はあまり記憶にないようですでに「ちり紙（しがみ）」利用世代になっています。従姉はちり紙へ変わったことが一番うれしかったと言っていました。わたしはそれほど強い記憶がなく生まれ年からおそらくちり紙が家庭に普及したのは昭和40年頃だと推察されます。高度経済成長期といわれた頃を象徴する「三種の神器」を例にとると、我が家では昭和40年代初め頃に白黒テレビが入り、ずいぶん時間をおいて洗濯機、冷蔵庫が入ったように思いますが、おそらくこの頃に電化製品や化学製品が社会にたくさん入ってきたことにより生活体系が大きく変化したように思っています。

これらはわたし自身の成育歴からなんとなく理解できることですが、昭和40年以前の生活となると本当にわからないことだらけです。両親や祖父母から聞きかじった記憶は残っているもののまじめに聞いていないつけでおぼろです。とても悔いているので、折をみて人生の先輩たちから「昔のこと、昔の生活」を聞こうと心がけています。その際、相手へ具体的に「いつ頃の何を聞きたいのか」を明らかにすることは必須だと考えています。「今なら Youtube で探せるでしょ」という向きもあるでしょうしそのアプローチを否定しません。なにせ動画ですからね。しかし、わからないことを尋ねたり、体を使って教えてもらうことはできません。まだまだ対面で聞くことにこだわりたいです。最後に、今日のローカル紙地方版に「2025年 VHSテープが再生できなくなる」という記事が出ていました。昔の生活や生業、地域伝統文化などの素材は家庭に眠っているものの含めぜひデジタル化して残して欲しいと切に願っています。

「くにびき通信」2025年2月号



大田市
山村留学センター
Sanbe Kodama Academy



大田市山村留学センター バックナンバー
公式ホームページ



〒694-0002 鳥根県大田市山口町山口1694

TEL: 0854-86-0700 FAX: 0854-86-0701 Email: o-sanryu@city.oda.lg.jp